

生命システム研究センター アドバイザリーカウンシル2016
(平成28年2月11日～13日 実施)

AC 報告書要旨 ※正文は英語

<概要>

QBiCは生物学、工学、化学、物理学の多分野にまたがる研究機関である。本研究所は、特にシステム論理に基づいた一分子、一細胞の方法を用いて、生物学における新しい定量的アプローチの開発に力を入れている。研究トピックは今にふさわしく、これにより日本における生物学分野の研究は一層強化されるはずである。設立から5年であるにもかかわらず、QBiCは、世界最高水準の技術開発で最先端のインフラを整備した。経営陣は敏腕で、センターの明確な方向性が打ち出されている。理研内・外のみならず海外機関との共同研究も盛んである。

<提言の概要>

1. 一細胞トランスクリプトームを扱う研究室の設置。
2. 一細胞メタボロミクス解析技術開発を長期的に継続して行うこと。
3. 特にDECODEプログラムにおいて、再構成生物学研究ユニットには、顕微鏡やコンピューティング技術のサポートを追加で提供すること。
4. QBiCにおいてデータ科学分野を強化すること。
5. ポスト京への移行中も、スーパーコンピューティング技術が継続して利用可能であること。
6. 女性の研究室主宰者を更に増やすこと。
7. 若手研究室主宰者のためにメンター制度を設置すること。
8. AC期間中、博士課程の学生と交流できる時間を設けること。

<AC委員>

Jonathon Howard <jonathon.howard@yale.edu>

David A Case <case@biomaps.rutgers.edu>

Martin Fussenegger <fussenegger@bsse.ethz.ch>

黒田玲子 <rkuroda@rs.tus.ac.jp>

近藤孝男 <kondo@bio.nagoya-u.ac.jp>

笹井理生 <sasai@tbp.nuap.nagoya-u.ac.jp>

松田道行 <matsuda.michiyuki.2c@kyoto-u.ac.jp>